

## 二代目西村市郎右衛門の出版活動

―その登場から享保年間までの動向―

藤原英城

### はじめに

初代西村市郎右衛門未達は貞享・元禄期に好色本を中心として西鶴に対抗した京の書肆として知られるが、<sup>(1)</sup>その二代目市郎右衛門については不明な点が多く、またその出版活動についても特に注目されることはなかった。しかし、二代目市郎右衛門は京の書肆八文字屋八左衛門と菊屋七郎兵衛がそれぞれ作者江島其磧・西沢一風を擁して覇権を争う西鶴没後の浮世草子界への参入を試み、西鶴本の江戸売り捌き元であった書肆万屋清兵衛とも結び、作者青木鷺水また北条团水・一風らの動向と連携しながら、反八文字屋勢力の一翼を担う動きを見せる。<sup>(2)</sup>

初代市郎右衛門が没するのは元禄九年九月とされるが、<sup>(3)</sup>同八年三月に西村九左衛門なる書肆が京都に登場する。二代目市郎右衛門に関しては、正徳から享保半頃まで登場する江戸の西村市郎右衛門が二代目となり帰京したとする説があるが、<sup>(4)</sup>それを同名の新たな江戸の売り捌き元であるとし、九左衛門を二代目と推定する説も示される。<sup>(5)</sup>

詳細は別稿を期したいが、二代目市郎右衛門の動向を概観すれば、江

戸の市郎右衛門と京都の九左衛門は同一人物と見られ、九左衛門は二代目市郎右衛門として正徳五年から享保十五年頃まで江戸に拠点を移して活動する。

九左衛門時代、江戸の西村半兵衛の下で修業を積んだと見られる二代目は、江戸市場を重視し、正徳五年に江戸に進出する。享保四年には自店の同住所に源六店を「出店」として開業させ、享保六年、二代目は『官刻六論衍義』の御用を勤めるとともに、源六は江戸本屋仲間の結成を奉行に願い出、享保十二年の南組の独立に際しては中絶していた「出店」表示を復活させる。

二代目西村市郎右衛門が江戸の本屋業界に及ぼした影響は、江戸本屋仲間結成のキーパーソンとなる源六の活動とも相俟って看過できないものがあると言えようが、本稿では右の概略に述べた活動を考証するための基礎資料として、享保期までの両店の刊行物一覧を掲載する。知られざる二代目市郎右衛門と源六の動向に関する具体的考察は別稿を期することとしたい。

凡例

一、初代西村市郎右衛門とその江戸売り捌き店と目される西村半兵衛の刊行書については、延宝二年頃刊『増続書籍目録』（西村市郎右門<sup>(マ)</sup>）を嚆矢とする元禄期までの一覧が備わる<sup>(7)</sup>。本稿では、元禄期までの刊行書については先行研究に未掲載の書物（◎印）、並びに管見の調査と異同のあるもの（▽印）のみを挙げる。

一、刊記に年月が記されていない場合は、序・跋の日付等によって年代を推定した。

一、トピックとなる見出し（▼印）を適宜補った（詳細は別稿に譲る）。

#### 参考文献

- ・東明雅氏「西村未達（市郎右衛門）の研究」〔『可里婆禰』第一号、昭37・2〕
- ・中嶋隆氏『初期浮世草子の展開』（若草書房、平8）「二章・一 西村市郎右衛門未達の出版活動と没年の推定」
- ・湯沢賢之助氏『西村本の浮世草子』（『新典社、平12）「一章 西村市郎右衛門（代々）の出版・文筆活動」
- ・長谷川強氏『浮世草子考証年表―宝永以降』（青裳堂、昭59）

#### 延宝七年四月

◎ 『格致余論疏鈔』 広田玄伯 大本八卷八冊

「書林／西村市郎右衛門梓行」（延宝七年四月十六日・序）

『新增書籍目録』（天和三年正月刊）に「八 格致論疏鈔」、『増益書籍目録大全』（元禄九年正月刊）には「八／同（西村市） 同（格致論）

疏鈔 広田元伯<sup>(マ)</sup> 十匁」として掲出される。刊記には特に入木の痕跡は窺えない。序の日付頃、遅くとも延宝末・天和初年頃には刊行されていたことが推測される。

#### 貞享三年五月

◎ 『念仏安心』 厭求 大本一巻一冊

「于時貞享三<sup>(丙)</sup>寅曆／皐月仏縁日／京師三條通油小路東へ入／書林西村市郎右衛門書写／彫刻」

#### 貞享五年正月

◎ 『万病回春指南』 岡本一抱子 横本五卷五冊

「岩貞享第五<sup>(辰)</sup>天孟春日／洛下 岡本一抱子／書舎／江戸神田新革屋

町／西村半兵衛／京三條通油小路東<sup>(江)</sup>入町／西村市郎右衛門／新刊」

◎ 『射法一統』 浅野正親 半紙本六卷六冊

「貞享第五龍集辰／孟春良日／江戸神田新革屋町／書坊 西村半兵衛

／同 斎藤作兵衛」

#### 元禄五年正月

◎ 『古今養性録』 竹中通庵 大本十六卷十五冊

「元禄五年壬申春正月上元／江府書林／神田新革屋町／西村半兵衛鏤」

#### ▼江戸・西村九郎右衛門の登場（元禄五年二月）

#### 元禄五年二月

◎ 『保産機要』 竹中通庵 小本一巻一冊

「元禄五年亥猿春上浣／書林／江府神田新革屋町／西村半兵衛鏤／同

九郎右衛門梓／京師書林 西村市郎右衛門<sup>1</sup>

▼初代市郎右衛門、元禄六年六月までに六角西洞院西入町へ移転<sup>8)</sup>

『二所皇大神遷幸要略』「元禄六龍集<sup>癸</sup> 西林鐘上旬／京六角西洞院西入町 西村市郎右衛門／江戸神田新革屋町 西村半兵衛店」(中嶋氏稿)

▼京都・西村九左衛門の登場(元禄八年三月)

元禄八年三月

▽『季土材三書』 李中梓(竹中通庵跋) 大本六卷十二冊

「昔元禄八旃蒙大淵献春三月穀旦／帝畿 書肆／西村市郎右衛門／同氏 九左衛門／江府書坊／同氏 半兵衛／日校刊行」

元禄八年九月

▽『万病回春病因指南』 岡本一抱子 半紙本七卷七冊

「昔元禄乙亥秋九月吉日刻于載文堂／皇都書舎／西村市郎右衛門／同氏 九左衛門／江城書林／同氏 半兵衛／仝梓(三店に跨る)」

▼九左衛門、元禄九年二月までに手洗水町に居住<sup>9)</sup>

元禄九年二月

◎『増補枝葉訓解』 西村有隣子 小本二卷一冊

「元禄九曆龍集<sup>丙</sup> 子／仲春吉日／京堀川四條／大和屋善兵衛／井田三右衛門／同手洗水町／西村九左衛門／江戸神田新革屋町／西村半兵衛／仝録」

▼江戸店の空白期(元禄九年四月～正徳五年二月)

『格致余論諺解』「元禄九年龍次丙子春三月穀旦／帝畿書舎／六角通西洞院西入町／西村市郎右衛門／烏丸手洗水町／同氏 九左衛門／武昌書坊／神田新革屋町／同氏 半兵衛／蔵版(三店に跨る)」(中嶋氏稿)  
本書刊行以降、西村半兵衛の出版活動が確認できなくなる。<sup>10)</sup>

▼元禄九年九月三日 初代西村市郎右衛門(未達) 没

「元禄九丙子／九月三日 原隆／遍登道照信士／西村市良右エ門」(「京都大雲院過去帳」)(中嶋氏稿)

▼九左衛門、元禄九年十二月までに誓願寺通西洞院西入町へ移転

『玉箒子』(「元禄九年冬十二月朔旦／京誓願寺通西洞院西入町／西村九左衛門／同車屋町通夷川角／林久次郎／江戸日本橋南川瀬石町／山口権兵衛／同梓(三店に跨る)」)

「誓願寺通西洞院西入町」は初代市郎右衛門の住所「六角西洞院西入町」

と一致する（中嶋氏稿）。

▼二代目西村市郎右衛門の登場（元禄十一年正月）

元禄十一年正月

◎『延喜太神宮式』 出口延経 大本一卷一冊

「元禄十一年正月廿一日寿梓／伊勢山田藤原長兵衛重常／京六角西村市郎右衛門渠宮」

▼二代目市郎右衛門、元禄十二年三月までに烏丸六角下  
ル町へ移転

『皮籠摺』「元禄十二<sup>己</sup>卯年／賞花中漣／伊勢山田上一志町／藤原長兵

衛／京烏丸六角下ル町／西村市郎右衛門」（中嶋氏稿）

宝永二年五月

○『御前独狂言』 西鷲 大本六卷六冊

「宝永二<sup>第</sup>歳／西五月吉日／書林／江戸日本橋川瀬石町／須藤権兵衛／

京烏丸通六角下ル町／西村市良右衛門／彫刻」

宝永三年正月

○『御伽百物語』 青木鷺水 大本六卷六冊

「宝永三<sup>丙</sup>戌年正月吉日／江戸 林和泉掾／寺町通松原上ル町／京 菱

屋治兵衛／開板（両店に跨る）」

「広告」諸国因果物語 全部六卷 跡より追付出来」

宝永四年三月

○『諸国因果物語』 青木鷺水 大本六卷六冊

「宝永四<sup>丁</sup>亥年三月吉日／書肆／江戸日本橋南一丁目／出雲寺四良兵衛  
／京寺町松原上ル町／菱屋治兵衛／板行（両店に跨る）」

「廣告」近代 芭蕉翁諸国物語 全部六卷／近日出来申候」

宝永四年八月

○『初音物語』 青木鷺水 小本四卷四冊

「宝永四<sup>歳</sup>／亥仲秋吉祥日／武州／万屋清兵衛／洛陽／西村市郎右衛  
門／梓行」（『浅草拾遺物語』「刊記欠、洛下旅館序「貞享二歳／丑孟  
春上旬」の改竄改題本）

宝永五年正月

○『古今堪忍記』 青木鷺水 大本七卷七冊

「宝永五年／子正月吉祥日／江戸日本橋南壱丁目／出雲寺四郎兵衛／  
京寺町松原上ル丁／菱屋治兵衛／板行（両店に跨る）」

「廣告」此次ニ 誹林近代芭蕉翁諸国物語／行脚手日記／全部六卷／同  
風流吉日鏡曾我 全部八卷／此二色追付出来仕候／板行出来 御伽

百物語／此本近代ようくわはなししるす／全部六卷／同 近代因果物  
語／此本近代むくひはなししるす／全部六卷／此二色は板行出来仕候  
／御覽被遊可被下候」

宝永六年八月

○『新玉櫛笥』 青木鷺水 大本六卷六冊

「岩宝永六<sup>第</sup>竜次己丑歳／仲秋之月既望／雒陽書肆／中川茂兵衛／西  
村市良右衛門／板行（両店に跨る）」

宝永七年三月

○『吉日鑑曾我』 青木鷺水 大本七卷七冊

「宝永七歳<sup>寅</sup>／三月吉日／江戸書林（空白）／京書林／丹波屋茂兵衛版／同／西村市郎右衛門版」

正徳三年正月

○『宗祇諸国物語』 洛下旅館 半紙本五卷五冊

「正徳三巳正月吉日／西村市郎右衛門／姉小路通堀川東江入ル町／丹波屋茂兵衛」（貞享二年刊本「貞享式<sup>次</sup>曆<sup>乙</sup>丑／正月上濬日／神田新革屋町／西村半兵衛／京師三糸通／西村市郎右衛門／同八幡町通／坂上勝兵衛／刊行」の再印本）

正徳四年正月

○『医学切要指南』 岡本一抱 半紙本三卷三冊

「崑／正徳四<sup>甲</sup>午年／正月吉日／操筆於洛下撰生堂畢／一得翁一抱子述之／京姉小路通堀川東へ入町／書林 中川茂兵衛藏板／西村市郎右衛門」

### ▼江戸の西村市郎右衛門の登場（正徳五年三月）

正徳五年三月

○『射法一統』 浅野正親 半紙本六卷六冊

「正徳第五<sup>乙</sup>未歳<sup>乙</sup>／三月吉日／京書肆（両店に跨る）／京姉小路通堀川東<sup>江</sup>入町／中川茂兵衛／西村市良右衛門／江武通本石町二丁目／藏版（両店に跨る）」（貞享五年刊本の求板）

刊記様式上は西村市郎右衛門は京・江戸の両店であり、住所は江戸店のものが記載されている。東論文では『射法一統』と紹介される。

享保三年正月

○『諸家軍配記』 九二軒鱗長 大本八卷八冊

「享保三<sup>戊</sup>戌年正月穀旦／武江／江戸日本橋南老町目／須原屋茂兵衛／書肆／同本町三丁目／西村市良右衛門／皇城／堀河通綾小路下ル町／錢屋庄七良／梓行（三店を跨ぐ）」

享保四年正月

○『和漢文類諸家名数』 神田白籠子 半紙本五卷五冊

「享保四<sup>己</sup>亥歳正月良辰／帝畿 書肆 西村市郎右衛門／江府 書坊 西村載文堂／藏刊（両店に跨る）」

### ▼「出店」西村源六の登場<sup>12)</sup>（享保四年九月）

享保四年九月

○『神祇／伊勢 御改服忌令』 中本一卷二冊

「享保四年<sup>亥</sup>年九月吉日／京六角通鳥丸西<sup>江</sup>入丁／西村市良右衛門／出店江戸本町三丁目／西村源六／藏版（二店に跨る）」

享保六年正月

○『字林和玉篇大成』 大和田気求 横本一卷一冊

「享保六年／丑正月吉日／寸珍四声和玉韻略大成板行／書林／京姉小路通堀川東へ入丁／中川茂兵衛／板行／江戸通本町三丁目／西村市良<sup>江</sup>衛門」

享保六年十一月

○『官刻六論衍義』（徂徠訓点本） 大本（半紙本）二卷二冊（一冊も有り）

「享保六辛丑歳十一月吉日／武江 書林／出雲寺和泉掾／西村市郎右衛門／野田太兵衛／大和屋太兵衛／小川彦九郎／須原屋茂兵衛」

▼この頃、源六が江戸本屋仲間の結成を公儀へ願ひ出る

享保七年四月

○『官刻六論衍義大意』（室鳩巢訳） 大本一巻一冊

以下の甲・乙板が確認できる。

甲「享保七壬寅歳四月吉日／武江 書林／出雲寺和泉掾／西村市郎右衛門／野田太兵衛／大和屋太兵衛／小川彦九郎／須原屋茂兵衛」

←寛政十一年

○『賜版六論衍義大意』 大本一巻一冊

「享保七壬寅歳四月吉日／寛政十一年己未仲和／賜版／武江 書林／出雲寺和泉掾／西村市郎右衛門／野田太兵衛／大和屋太兵衛／小川彦九郎／須原屋茂兵衛」

「享保七壬寅歳四月吉日／寛政十一年己未仲和／賜版／武江 書林／出雲寺和泉掾／西村市郎右衛門／野田太兵衛／大和屋太兵衛／小川彦九郎／須原屋茂兵衛／同 善五郎」（後印）

乙「享保七壬寅歳四月吉日／武江 書林／出雲寺和泉掾／西村市郎

右衛門／野田太兵衛／大和屋太兵衛／小川彦九郎／須原屋茂兵衛」（『官刻六論衍義』と同じ六名）

←享保七年八月

○『官刻六論衍義大意』 大本一巻一冊

「享保七壬寅歳八月吉日／洛陽 書林／出雲寺和泉掾／野田弥兵衛／小河多左衛門／中川茂兵衛」

○『賜版六論衍義大意』 大本一巻一冊

「享保七壬寅歳八月吉日／洛陽 書林／出雲寺和泉掾／野田弥兵衛／小河多左衛門／中川茂兵衛」

享保八年九月

○「住吉御文庫建立発願文」

「享保八<sup>癸卯</sup>九月吉日／取次 神奴藏人／願主肝煎／大坂／寺田与右衛門／同／大野木市兵衛／同／敦賀屋九兵衛／同／吉文字屋市兵衛／同／河内屋宇兵衛／同／毛利田庄太郎／同／池田屋三郎右衛門／同／山本九右衛門／京都／杉生五郎左衛門／同／河南四郎右衛門／同／林長左衛門／同／中川茂兵衛／同／上村四郎兵衛／江戸／小川彦九郎／同／須原屋茂兵衛／同／万屋清兵衛／同／中村進七／同／杉浦三郎兵衛／同／梅村彦兵衛／同／西村市郎右衛門／右御宝藏之書籍懺成申合を以講中之内より毎年相改永々紛失無之様に仕儀相違無御座候以上／卯ノ九月吉日」

享保九年八月

○『冥加訓』 関一楽 半紙本五卷五冊

「享保九辰、歳／八月吉辰／江戸通本町三丁目／西村市郎右衛門／撰

陽 書肆／高麗橋筋豆葉町／油屋與兵衛／伊丹屋新兵衛」

享保十一年正月

○『唐訳便覧』 岡島冠山 半紙本五卷五冊

「享保十一年丙午正月吉日／京師書舗／堀川仏光寺下<sup>ル</sup>町／伏見屋藤次郎 版行／大坂書舗／高麗橋一丁目／伏見屋藤三郎／江戸書舗／通石町一丁目／西村市郎右衛門」

○『官位俗訓』（慎齋序、環翠子後序） 半紙本四卷四冊

「享保十一丙午とし初春日／洛下後学慎齋書」（序）

「于時享保十一歳孟春吉辰環翠子揮毫／遵生軒」（後序）

「江戸通本町三丁目角／西村源六／大坂心齋橋筋安堂寺町／大野木市兵衛／京堀河高辻上<sup>ル</sup>町／錢屋儀兵衛／同錦小路新町西<sup>入</sup>町／永田調兵衛／同六角通烏丸西<sup>入</sup>町／西村市郎右衛門／同寺町仏光寺下町／著屋勘兵衛」

月尋堂『官職田舎辨疑』（初印本「宝永八季春吉辰／書林／江戸日本橋南一町／須原屋茂兵衛／京三条大和大路／橘屋次兵衛」、再印本「享保四季春吉辰／書林／江戸日本橋南一町／須原屋茂兵衛／京三条大和大路／橘屋次兵衛」の求板改題本<sup>13)</sup>。

享保十一年八月

○『民家分量記』 常盤潭北 半紙本五卷五冊

「享保十一<sup>丙午</sup>歳八月吉日／書肆／江戸本町三丁目／西村源六藏板」（初印本）

「享保十一<sup>丙午</sup>歳八月吉日／京都書林／六角通烏丸西<sup>江</sup>入町／西村市郎右衛門／東都書肆／本町三丁目／西村源六藏板」（再印本）

（享保十二<sup>丁未</sup>歳仲夏吉日／京都書肆／堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市良右衛門／江都書林／通本町三丁目／西村源六藏板）後（三）印本）

▼源六、「出店」表示を再開（享保十二年正月）

▼この頃、本屋仲間南組の独立が表面化する

享保十二年正月

○『竹齋行脚袋』 半紙本五卷五冊

「享保十二のとし／ひつしの正月吉日／京六角通烏丸西<sup>江</sup>入町／西村市郎右衛門／出店江戸本町三丁目／西村源六／彫刻」（『新竹齋』「貞享第四歳／卯芳春吉辰日／書林／帝畿三条通油小路東<sup>江</sup>入／西村市郎右衛門／坂上庄兵衛／彫刻」の改題本）

『新撰書籍目録』（享保十四年十二月刊）には「五 新竹齋 西村氏」と掲載される。作者は未達か。

○『御伽大黒の槌』 洛下寓居 半紙本六卷六冊

「享保拾弍年／未ノ正月吉祥日／京六角通烏丸西<sup>入</sup>町／西村市良右衛門／江戸通本町三丁目出店／西村源六」（『新御伽婢子』「天和參歳／亥九月上旬／江戸神田新革屋町／西村半兵衛／京三条通／同 市郎右衛門／八幡町通／大津屋庄兵衛」の改題本）

○『停雲集』 新井白石 大本二卷二冊

「享保丁未正月穀旦／御書物所／麴町拾丁目／唐本屋清兵衛／本町三丁目／西村源六求板」寛延・宝暦頃の求板本）

享保十二年五月

○『田舎莊子外篇』 佚斎樗山 半紙本六卷六冊

「享保十二<sup>丁</sup>未<sup>末</sup>歳仲夏吉日／京都書肆／堀河錦上<sup>ル</sup>町／西村市良右衛門

／江都書林／通本町三丁目／西村源六藏板」

○『民家分量記』 常盤潭北 半紙本五卷五冊

「享保十二<sup>丁</sup>未<sup>末</sup>歳仲夏吉日／京都書肆／堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市良右衛門

／江都書林／通本町三丁目／西村源六藏板」(享保十一年刊本の後(三印本))

享保十二年夏

○『俳諧閨の梅』 露月 大本二卷二冊

「享保十二<sup>丁</sup>未<sup>末</sup>夏／江戸通本町三丁目書林／板行所 西村源六」

享保十二年八月

○『下懸外仕舞囃謡大成』 横本一卷一冊

「享保十二<sup>丁</sup>未<sup>末</sup>年仲秋吉祥日／武陽書林／通本町三丁目／西村市郎右衛門／京師書林／新町通下長者町上<sup>ル</sup>町／谷口七左衛門(印)」

享保十三年正月

○『百味主能師言鈔診解』 岡本一抱著・寺島澗電子診解 大本五卷五冊

「享保十三<sup>戊</sup>申<sup>申</sup>正月吉日／姉小路通堀川東<sup>へ</sup>入町／中川茂兵衛／堀川通鮎薬師下<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／中川弥兵衛／板行(三店に跨る)」

享保十三年二月

○『虫目付字合様指南』 半紙本一卷一冊(『虫目付字』二卷二冊とセツトで全三冊)

「享保十三年<sup>戊</sup>申<sup>申</sup>二月吉日／江戸／通本町二丁目角／西村市郎右衛門／大坂／安堂寺町心齋橋筋／大野木市兵衛／京都／四條通寺町西<sup>へ</sup>入町／上坂勘兵衛」

○『初製目付字』 半紙本二卷二冊

『割印帳』(享保十三年五月)「享保十三<sup>戊</sup>申<sup>申</sup>二月吉日／初製目付字二冊／作者／源兼勝述／板元 京 めと木や勘兵衛／大坂 大野木市兵衛／江戸 西村市郎右衛門／売出し 同源六」

現存本『初製目付字』(半紙本二卷二冊、東北大狩野文庫蔵)は無刊記本。『虫目付字』(二卷二冊)とは別本。

享保十三年六月

○『河伯井蛙文談』 佚斎樗山 半紙本三卷三冊

「享保十三<sup>戊</sup>申<sup>申</sup>歳季夏吉日／京都書林／堀河錦上<sup>ル</sup>町／西村市良右衛門／江都書林／通本町三丁目／西村源六藏板」

享保十三年八月

○『惠然別伝禪師骨董』

『割印帳』(享保十四年十一月)「同十三<sup>戊</sup>申<sup>申</sup>年南呂初八／惠然別伝禪師骨董 三冊／碩運／碩麟／録／板元売出し 西村源六／板元 同市郎右衛門／藏板 深川惠念寺」

享保十三年中

○『本朝正運紀略』

『割印帳』(享保十三年十二月)「享保十三<sup>戊</sup>申<sup>申</sup>年／本朝正運紀略 折本老冊／作者／大窪戌吉／板元 西村源六／売出し 西村源六」

享保十四年正月

○『天狗芸術論』 佚斎樗山 半紙本四卷四冊

「享保十四歲次己酉孟春／書肆／洛陽／堀河錦上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／武陽／本町三丁目／西村源六藏版」

享保十四年春

○『誹諧寄進能』

『割印帳』（享保十四年四月）「同己酉春／誹諧寄進能 二冊／豊島治左衛門撰者／板元 西村源六」

享保十四年六月

○『画図百花鳥』 石中子 大本五卷五冊

「書林／京堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／江戸本町三丁目／西村源六藏版／享保十四年<sup>西</sup>六月吉日」

享保十四年六月か

○『再刊仏光國師語録』 無学祖元著・一真等編 大本十卷十冊

「書林／京寺町通五条上<sup>ル</sup>町／林五郎兵衛／京堀川通錦小路上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門」（享保十一年九月三日・跋）

『割印帳』（享保十四年四月）には「六月廿二日改」と記される。

享保十四年七月

○『寓意艸』 喻昌 大本六卷六冊

「享保十四年<sup>己</sup>七月吉日／堀川通錦小路上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／堀川通高辻上<sup>ル</sup>町／植村藤次郎／藏版（商店に跨る）」

享保十四年八月

○『初学消息集』

『割印帳』（享保十四年十一月）「同十四西桂月／初学消息集 一冊／玉置茂八筆／板元売出し 西むら源六」

享保十四年九月

○『六道士会録』 佚斎樗山 半紙本五卷五冊

「享保十四<sup>己</sup>西歲九月／京師／堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／江府／本町三丁目／西村源六藏版」

享保十五年正月

○『璣訓蒙鑑草』 多賀谷環中仙 半紙本二卷三冊

「享保十五年／戊正月吉日／書林／武陽 西村市郎右衛門／浪花 瀬戸物屋伝兵衛／皇都 著屋伝兵衛」

『割印帳』（享保十四年十二月）「同十五戊正月／璣訓蒙鑑草 三冊／

作者／環中選／板元 京都 西村市郎右衛門／瀬戸物屋伝兵衛／著屋伝兵衛／売出し 西むら源六」

○『料理綱目調味抄』 嘯夕軒宗堅 中本五卷五冊

「享保十五<sup>庚</sup>年孟春日／書林／京姉小路堀川東<sup>江</sup>入町／中川茂兵衛／京堀川通錦小路上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／江戸通本町三丁目／西村源六」

○『われかしこ』 嘯夕軒宗堅 半紙本三卷三冊

「享保十五<sup>庚</sup>年孟春／書林／皇都 西村市郎右衛門／江府 同 源六」

享保十五年二月

○『満字節用書翰宝蔵』 中村平五 大本一卷一冊

「維時享保十五<sup>庚</sup>曆／板元 松梅軒 栄梓／中川茂兵衛／永田調兵衛

／中村次郎兵衛／河南四郎右衛門／植村藤次郎／（不明）兵衛／西村市郎右衛門

『割印帳』（享保十五年六月）「同十五戊二月／満字節用書翰宝蔵 一冊／中村平五三近子筆／板元 京 松梅軒七人ノ相板／売出し 植村藤三郎／墨付百十五丁」

享保十五年二月以降（享保年間中）

○『筆海用文聯珠宝鑑』 大本一巻一冊

「享保改正／三月吉日／江戸通本町三丁目／西村源六／京書林／京姉小路通堀川東<sup>江</sup>入町／中川茂兵衛板行／中川弥兵衛」

奥付に『満字節用書翰宝蔵』の既刊広告あり。

享保十五年三月

○『誹諧浜の真砂』 雲鼓・竹丈・白応 横本一巻一冊

「享保十五<sup>戊庚</sup>年三月／江戸本町三丁目／書林 西村源六梓」

○『はいかい続真砂』 白応 横本一巻一冊

「享保十五<sup>戊庚</sup>年三月／江戸本町三丁目／書林 西村源六梓」

○『誹諧さゞれ石』 三ヶ津宗匠 横本一巻一冊

「享保十五<sup>庚</sup>年三月／江戸本町三丁目／書林 西村源六梓」

○『誹諧百衛』 白応・蝶々子 横本一巻一冊

「享保十五<sup>庚</sup>年三月／江戸本町三丁目／書林 西村源六梓」

『割印帳』（享保十五年七月）「同十五戊三月／俳諧百千鳥 前句本壹冊／同（撰者）／白応／蝶々子／板元売出し 西村源六」

○『玉万要書札集 全』

『割印帳』（享保十五年六月）「同／玉万要書札集 全／玉置茂八筆／

板元売出し 西村源六／墨付卅丁半」

享保十五年四月

○『俳度曲』 識月（露月） 半紙本一巻一冊（下巻）

「享保十五<sup>庚</sup>初夏／書林／通本町三丁目／西村源六蔵板」

○『俳諧宮遷』

『割印帳』（享保十五年四月）「享保十五戊初夏／俳諧宮遷／二冊 五重軒露月／板元売出し 西村源六」

享保十五年五月

○『新後明題和歌抄』 伯水堂梅風 半紙本六巻四冊

「享保十五<sup>庚</sup>歲仲夏吉日／京都書肆／堀河錦上<sup>ル</sup>町／西村市良右衛門／江都書林／通本町三丁目／西村源六蔵板」

享保十五年十月

○『仮名文章』

『割印帳』（享保十六年正月）「同十五戊初冬／仮名文章 壹冊／玉置茂八筆／板元売出し 西村源六」

享保十六年正月

○『新板小謡断錦集』 横本一巻一冊

「享保十六<sup>辛</sup>年正月吉日／書肆／江戸室町三丁目／須原屋市兵衛／同本町三丁目／西村源六」（『鴻山文庫本の研究』）

享保十六年六月

○『婦人方考』 中本一巻一冊

「享保十六<sup>辛</sup>年歲六月改正／皇都書林 西村市郎<sup>右衛門</sup>」

○『七経孟子考文補遺』 山井崑崙（荻生北溪補） 大本十四卷三十二

冊

「享保辛亥六月穀旦梓畢／東都書林／松会三四郎／中村新七／野田太兵衛／杉浦三郎兵衛／須原屋新兵衛／万屋清兵衛／西村源六／植村藤三郎／戸倉屋喜兵衛／栃木屋清兵衛／小川彦九郎」

享保十六年七月

○『六論衍義小意』 中村三近子 大本三卷三冊  
「書林／江戸本町三丁目／西村源六／京堀川通錦上町／西村市郎右衛門」（享保十六年七月二十九日・跋）

○『老子本義』 近藤舜政 大本二卷二冊

「享保十六年辛亥夷則穀旦／京師書坊載文堂／堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／東都書坊文刻堂／本町三丁目／西村源六梓」

享保十六年九月

○『俳諧蝶番』 蝶々子・白応・雲鼓 横本一卷一冊

「享保十六辛亥年九月吉日／江戸本町三丁目／西村源六梓」

○『誹諧江戸紫』 蝶々子 横本一卷一冊

「享保十六亥九月／江戸本町三丁目／西村源六梓」

享保十七年正月

○『官刻 増広太平和劑局方』 陳師文等編・今大路親顕等校 大本十六卷十二冊

「享保十七<sup>壬子</sup>年孟春／東都書林／西村又右衛門／西村源六／植村藤三郎／前川権兵衛」

○『金匱要略』 張仲景 大本五卷五冊

「享保十七<sup>壬子</sup>太簇良辰／東都書舖／通本町三丁目／西村源六／本石町

二丁目／植村藤三郎／大坂書坊／高麗橋一丁目／植村藤三郎／洛陽書舖／堀川高辻上<sup>ル</sup>町／植村藤治郎／姉小路堀川東入町／中川茂兵衛／寺町鮎薬師上<sup>ル</sup>町／秋田屋惣兵衛／寿梓（京三店を跨ぐ）」

○『庭訓往来』 玉置榮長 大本二卷二冊

「京堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／江戸通本町三丁目／西村源六蔵版」（享保十七年正月上浣・跋）

享保十七年五月

○『誹諧をたまき綱目』 竹亭 小本一卷一冊

「享保十七<sup>壬子</sup>仲夏日／東都書林／通本町三丁目／西村源六求板」

○『筆海俗字指南車』 中村三近子 半紙本一卷一冊

「享保十七<sup>壬子</sup>皐月吉辰／書亭／江戸 西村源六郎／皇都 西村市郎右衛門」

○『中華歴代帝王図并僭偽』 坂時存 一舖

「書肆／皇都 西村市郎右衛門／武江 西村源六」（享保十七年五月・跋）

「割印帳」（享保十八年五月）「同十七子五月／中華歴代帝王并僭偽図一枚／長門 坂先生考訂／板元売出し 西村源六」

享保十七年六月

○『俳諧綾錦』 沾涼 半紙本三卷三冊

「享保十七<sup>壬子</sup>年六月吉祥日／書肆／京堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／江戸本町三丁目／西村源六梓行」

享保十七年八月

○『誹諧反故拾遺』 常盤潭北

『割印帳』（享保壹七年八月）「同十七子八月／俳諧反故拾遺 貳冊／

撰者／常盤潭北／板元売出し 西村源六」

享保十七年秋

○『捷徑弁義』 善嶼子 大本一卷一冊

「享保十七壬子年素秋吉辰／書林／京堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門

／江戸本町三丁目／西村源六梓」

享保十七年中

○『俳諧句靈宝』 露月 半紙本三卷三冊

「享保十七<sup>壬子</sup>年 月吉祥日／書肆／京堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門

／江戸本町三丁目／西村源六梓行」（享保十年冬・跋）

『割印帳』（享保十三年正月）「享保十巳仲冬／俳諧句靈宝 三冊／作

者／露月集／板元 露月／売出し 西村源六」

享保十八年二月

○『野総茗話』 常盤潭北 半紙本四卷四冊

「享保十八年癸丑仲春／書肆／京堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市郎右衛門／江

戸本町三丁目／西村源六梓行」

享保十八年五月

○『陳臥子明詩選』 陳子龍等 小本十三卷十三冊

「享保十八年癸丑仲夏穀旦／皇都書林／京堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村<sup>（イ）</sup>一郎右

衛門／東武書肆／江戸本町三丁目／西村源六藏版」

享保十九年正月

○『本朝世事談綺』 沾涼 半紙本五卷五冊

「享保十九甲寅天正月吉辰／江都書林／本町三丁目／西村源六／日本

橋南一丁目／万屋清兵衛／合刻」

○『官刻 度量衡考』 荻生徂徠・荻生北溪 大本三卷三冊

「享保十九年甲寅正月穀旦梓華／東都書林／松会三四郎／出雲寺和泉

／万屋清兵衛／小川彦九郎／須原屋新兵衛／翠簾屋又右衛門／西村源

六／中村新七」

享保十九年三月

○『文筌小言』 服部南郭 半紙本一卷一冊

「享保甲寅三月／書林／京師 西村市郎右衛門／東都 西村源六 発

行」（京都書林 須原屋平左衛門）板は後印本）

『割印帳』（享保十九年三月）「享保甲子<sup>（イ）</sup>二月／文筌小言 壹冊／南郭

先生作／板元 西村源六」

享保十九年五月

○『古今知恵枕』 河内玄宅 半紙本三卷三冊

「享保十九<sup>甲寅</sup>年 歲仲夏吉日／京都書肆／堀川錦上<sup>ル</sup>町／西村市良右衛門

／江都書林／通本町三丁目／西村源六藏板」

享保二十年正月

○『俳諧友あぐら』 沾州 半紙本一卷一冊

「享保二十年<sup>乙卯</sup>年 孟春／東都書肆／本町三丁目／西村源六梓行」

享保二十年七月

○『中書楷訣』 姜立綱 大本一卷一冊

「享保二十年<sup>乙卯</sup>初秋／江府書肆／本町三丁目／西村源六發行」

○『俳諧玄々前集』 羊素 半紙本二卷二冊

「東都書肆／本町三丁目／西村源六梓行」（享保二十年七月中旬・跋）

○『英雄軍談』 佚齋樗山 半紙本五卷五冊

「享保廿<sup>乙卯</sup>歲初冬／京堀川錦上ル町／西村市郎右衛門／江戸通本町三丁目／西村源六／版（両店に跨る）」

享保二十年十月

○『俳諧麓集』 半溪 半紙本一卷一冊

「本町三丁目／書肆 西村源六」（享保二十年・跋）

『割印帳』（享保二十年十月）「同廿卯ノ十月／俳諧麓集 壹冊／魚貫／無来／雲阿／半溪／撰／板元売出し 西村源六」

享保二十年十一月

○『婦去来辞』 細井広沢 大本一卷一冊

「峇／享保乙卯冬十一月望」（跋）

「文刻堂寿梓目錄／江戸通本町三丁目 西村源六」付載

『割印帳』（享保二十一年二月）「同廿卯冬／婦去来辞 石摺一冊／広沢筆／板元売出し 同人（西村源六）」

享保二十年（冬か）

○『愛蓮説』 細井広沢 一帖

「峇／享保乙卯冬十一月望」（跋）

『割印帳』（享保二十一年二月）「同廿乙卯とし／愛蓮説 石摺一冊／筆者／広沢／板元売出し 西村源六」

享保二十一年三月

○『新句兄弟』 天池斎魚貫 半紙本一卷一冊

「東都／本町三丁目／書林 西村源六」（享保二十一年三月・序）

『割印帳』（享保二十一年二月）「同廿一辰三月／新句兄弟 壹冊／天

池斎魚貫撰／板元売出し 西村源六」

享保二十一年五月

○『俳諧鳥山彦』 沾涼 半紙本二卷二冊

「享保廿一丙辰皐月日／書賈／武江本町通三丁目／西村源六郎梓」

元文元（享保二十二年）年五月

○『釈親考』 伊藤長胤（安原貞平校） 大本二卷二冊

「元文元年丙辰仲夏穀旦／京都書肆／堀川錦上ル町／西村市郎右衛門／江都書坊／本町三丁目／西村源六／発行（両店に跨る）」

元文元年夏

○『俳諧なにの姿』

『割印帳』（元文元年十月）「元文元辰ノ夏／俳諧なにの姿 一冊／椒花／板元売出し 西村源六」

元文元年九月

○『井蛙問答』 半溪 半紙本一卷一冊

「元文元年季秋／本町三丁目／書林 西村源六」

元文元年十一月

○『芙蓉菴法帖』

『割印帳』（元文元年十一月）「同十一月／芙蓉菴法帖 石すり折本一冊／松下烏石筆／板元売出し 西村源六」

注

(1) 拙稿「新出の西村本『色道宝船』卷二について」（『和漢語文研究』10号、平24・11）。

- (2) 拙稿「鷺水の新出浮世草子『初音物語』(巻一・四)―翻刻と  
 解題―」(『京都府立大学学術報告 人文』67号、平27・12)。
- (3) 後掲参考文献・中嶋隆氏稿。
- (4) 後掲参考文献・東明雅氏稿。
- (5) 注(3)に同じ。
- (6) 元禄五年正月に西村半兵衛店とともに登場する江戸の西村九郎  
 右衛門と九左衛門との関係については未詳。
- (7) 注(3)に同じ。後掲参考文献・湯沢賢之助氏稿は延宝三年刊  
 『女五経』から寛政十二年刊『万宝料理秘密箱』までの西村市  
 郎右衛門の刊行書について、ジャンルに分類して概観している。
- (8) 刊記上における西村市郎右衛門の住所の初出は天和三年三月刊  
 『小夜衣』の「京三條通」であるが、天和四年正月刊『立花手  
 曳集』には「京三條通塩屋町」、貞享三年五月刊『念仏安心』  
 には「京師三條通油小路東へ入」と記され、元禄五年正月刊『本  
 絵雛形』まで踏襲される。「三條通塩屋町」と「三條通油小路  
 東へ入」は同一の所在と見なされ、天和三年「京三條通」当初  
 からの住所であったことが推測されよう。
- (9) 元禄八年三月以来の住所については、京都であること以外は未  
 詳。当初から「手洗水町」であった可能性もある。
- (10) 塩村耕氏『近世前期文学研究』(若草書房、平16)「付録 近世  
 前期江戸の出版界について」には次のような記載がある。  
 ○西村半兵衛(梅風軒・唄風・梅松軒) 神田新革屋町  
 ・『万病回春指南』元禄12(京、西村市郎右衛門と合)
- (11) ただし、管見では元禄十二年刊『万病回春指南』の刊否は未詳。  
 二代目市郎右衛門渠堂が刊記上に初めて登場する元禄十一年正  
 月刊『延喜太神宮式』の住所「京六角」が「烏丸六角下ル町」  
 の略記ならば、二代目襲名とともに新住所に移転した可能性も  
 ある。
- (12) 高木利太氏『家蔵日本地誌目録 続篇』(昭和5)には次のよ  
 うな記載がある。  
 金沢江戸道中案内 一冊 小形 横本  
 享保二年 江戸 奥村喜兵衛、前門六左衛門、西村源六板  
 内題に「東街道中重宝記」とある。日本橋から東海道を名古  
 屋まで詳記し、美濃路に入つて少しく記し関ヶ原以北、北国  
 街道に入れば略して単に宿駅里程駄賃のみになつて居る。
- (13) 前門六左衛門は未詳。前川六左衛門の誤りならば、奥村喜兵衛  
 とともに寛保・延享期頃が活動の上限となる。当該書の刊否は  
 未詳ながら、『広街道中記 享和新版/改正増補』(内題「東街  
 道中重宝記」)「享和第二稔壬戌春三月発行/江戸書林/日本橋  
 平松町/奥村喜兵衛/同通三丁目/前川六左衛門/全版(二店  
 に跨る)」なる書は確認できる。「金沢江戸道中案内」の刊記は  
 「前川六左衛門」「享和二年」の誤りである可能性があるが、い  
 ずれにせよ「享保二年」の刊年は疑わしい。  
 拙稿「月尋堂の有職故実書『官職田舎辨疑』―翻刻と解題―」(『京  
 都府立大学学術報告 人文』65号、平25・12)。

(二〇一六年十月三日受理)

(ふじわら ひでき 文学部日本・中国文学科教授)

本研究はJSPS科研費26370242の助成を受けたものです。